

令和4年1月26日

SDGs 対応に係るソーセージの包装袋に関する取組について

一般社団法人日本食肉加工協会
日本ハム・ソーセージ工業協同組合

SDGsに係る近年の地球環境や経済・社会の持続可能性に関し、世界的な危機意識、関心が高まるなか、我が国においても、レジ袋の有料化をはじめとした様々な取組みが実施されています。

このような中、我が食肉加工業界におきましても、SDGs 対応に向けて業界として各種取組を進めていくために、1月26日開催の役員会において、「SDGs 推進委員会」を設立しました。

この度、SDGs 対応に向けた取組みの一環として、「SDGs 推進包装形態検討会」を設け、いわゆる「巾着袋」と呼ばれている「ソーセージにおける包装袋の包装形態の見直し」について取組んで行くこととしました。

ご存じの通り、ソーセージといえば巾着袋としてスーパー等の重要な目玉商品として定着してきておりますが、この巾着袋についても持続的な製造を進める観点から業界をあげて包装形態の見直しに取組むこととしたものであります。

今、私ども業界は厳しい経営環境下にあります。SDGs の取組は今後の社会全体の取組として不可避の課題であり、国民生活における安定的で良質な動物性タンパクの提供に努めるべく持続的な食品提供体制を維持するためにも、これまでステークホルダーの皆様方と培ってきたソーセージ流通消費のステータスを大切にしつつも、強い決意のもと業界一体となって新たな包装形態に取り組むこととしました。また、この取組の実施にあたっては、流通サイドのご理解も得て、ナショナルブランド商品はもとより、プライベートブランド商品についても、一体的にSDGs 対応の取組として進めていくこととしております。

このような取組により、包材としては15～30%の削減が、また、これに伴う商品の体積の減少を通じて、輸送面での負荷の1割近い減少効果も期待されるものであり、業界をあげて全てのステークホルダーのご理解のもと、全力で取り組んで参る所存です。

今後のスケジュールとしては、切り替えは最終的には各企業の判断になりますが、既に取組みを始めている企業につづき、多くの企業が4月末までには取組み、新たな包装袋での消費者の皆様への提供が実現するものと思われま